



国土交通省

(出典・引用) 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_003926.html**国交省が27年度の予算概算要求 住宅局関連は前年度2.5倍の4,187億円**

国土交通省の2027年度予算概算要求は、一般会計に**8兆7,694億円**（25年度当初予算比**1.44倍**）を要求した。ストックの有効活用、防災対策の強化、省エネ・脱炭素の加速、生産性の向上などが大きな柱。新たな支援策も多く盛り込まれた。

このうち住宅局関連の予算総額は、**前年度比約2.5倍の4,187億円**と**大幅な増額**となっている。

**重点施策は—**

- 住まい・くらしの安全確保、良好な市街地環境の整備
- 既存ストックの有効活用と流通市場の形成
- 誰もが安心して暮らせる多様な住まいの確保
- 住宅・建築物分野の省エネ・脱炭素取組の推進
- 供給力強化に向けた担い手の確保・生産性の向上

この他、既存ストックの有効活用や住宅性能の向上、頻発する自然災害への対応などに対する手厚い支援が盛り込まれている。脱炭素・省エネ分野では、みらいエコ住宅2026事業の後継となる「みらいエコ住宅2027事業」に2,000億円を要求した。

同事業は、2030年以降の新築住宅におけるZEH水準の省エネ性能確保を見据えた施策で、支援対象は「ZEH水準の省エネ性能を有する新築住宅」や「既存住宅の省エネ改修」など。別途、GX移行債も活用し、GX志向型住宅への支援は、引き続き環境省との共同事業として実施する見通し。

国土交通省

「上位住宅トプランナー制度」施行日閣議決定

国土交通省は「改正建築物省エネ法」の施行に伴う関係政令を閣議決定した。

「**上位住宅トプランナー制度**」と「**先導的な省エネ技術を評価する大臣認定制度**」の施行日を2027年4月1日と定め、指定の基準となる前年度供給戸数は、8月の意見募集時点案から変更なく、建売戸建て・分譲マンション・注文戸建て住宅が2,000戸、賃貸アパートが1万5,000戸で確定した。

(出典・引用) 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_001150.html

住宅省エネ2026キャンペーン

窓リノベ、給湯器補助金等で現地検査実施へ

国の三省合同で行っている「住宅省エネキャンペーン2026」において、**事務局は先進的窓リノベ2026事業、給湯省エネ2026事業、賃貸集合給湯省エネ2026事業**の適正な実施を図るため、交付決定済みの申請においても、電話による問い合わせや追加書類の提出、補助対象建物への立ち入りを含めた現地調査を行うと発表。



(出典・引用) 住宅省エネ2026キャンペーン(先進的窓リノベ2026)

<https://window-renovation2026.env.go.jp/news/2026091002.html>

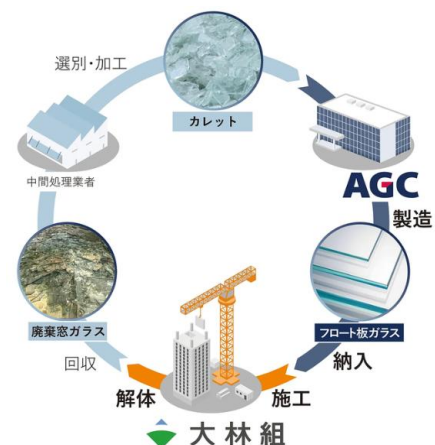
(株)大林組

国内初、建物解体現場の廃棄窓ガラスをフロート板ガラスの原料に

(株)大林組とAGC(株)は、大林組が請け負う解体工事で発生する廃棄窓ガラスを建築用フロート板ガラス製造原料の一部として使用、建築用途で循環利用するとともに、大林組が施工する建設現場での活用を進める水平リサイクルフローを構築。第一弾として、三菱UFJ銀行の本館解体工事で発生した廃棄窓ガラスを回収し、リサイクル工程へ供給。

解体現場由来の廃棄窓ガラスを原料の一部として使用し、フロート法で板ガラスを製造する事例は国内初。

(出典・引用) 大林組

https://www.obayashi.co.jp/news/detail/news20260819_2.html



住宅トレンド

サイキンソーとYKK APが「断熱窓・睡眠・腸内フローラ」の関連性を共同調査

(参照)YKK AP(株) <https://www.ykkapglobal.com/ja/newsroom/releases/20260807>

(株)サイキンソーとYKK AP(株)は「断熱改修で家族の健康力UP～腸内細菌叢でわかる健康力～」をテーマに、住宅の「断熱窓」と居住者の「腸内フローラ(腸内細菌叢)」の関係について共同調査を実施。

YKK APの従業員、及び腸内フローラ検査「Mykinso(マイキンソー)※1」を利用した一般生活者を対象に計326名分のアンケートデータを収集。あわせて、YKK AP従業員を対象にプログラム期間中に「Mykinso」検査を実施し125名分の腸内フローラデータを取得した。(調査実施期間:2025年11月～2026年2月)

※1:自宅で簡単に便を採取して郵送するだけで腸内フローラ(腸内細菌叢)の状態を調べられる検査サービス

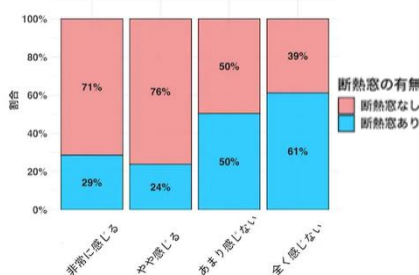
■ 断熱窓による室温の安定化がもたらす睡眠への影響

睡眠時の室内環境に関する項目を調査したところ、断熱窓の設置が睡眠の質や快適性に多角的な好影響を与えていることが明らかになった。

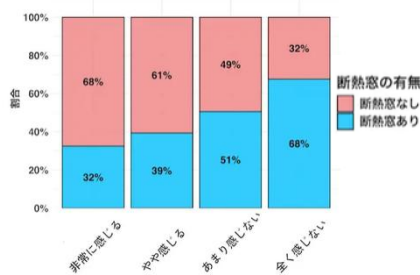
具体的には、「断熱窓がある」と回答した居住者は、「ない」と回答した居住者に比べ、「冬場に寝室が寒くて寝付きにくい」、「夏場に寝室が夜遅くまで熱を持って寝苦しい」と感じる割合が低いことが分かった。

これらの結果から、断熱窓は季節を問わず、冬の寒さと夏の暑さの両方に対して高い効果を発揮し、就寝時の適切な温度環境の維持に貢献していることが窺える。

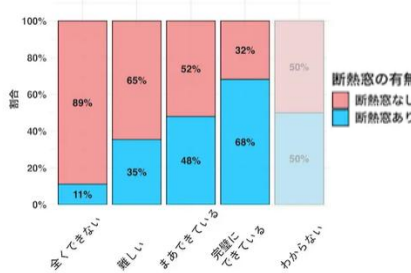
Q. 冬場の寝付きにくさ



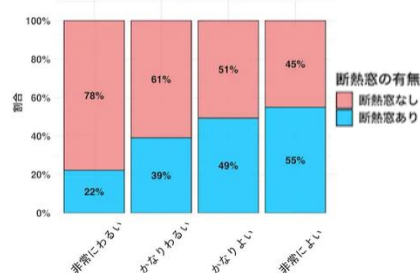
Q. 夏場の寝苦しさ



Q. 就寝温度の調整具合



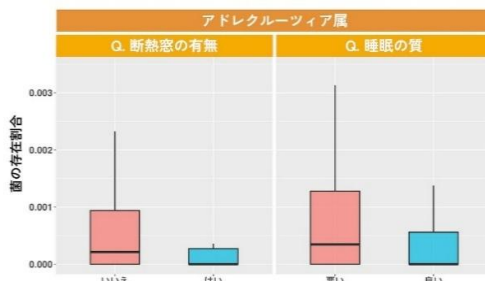
Q. 睡眠の質の主観評価



■ 断熱窓の有無および睡眠の質と腸内フローラの関係

住環境(断熱窓の有無)と睡眠の質が、居住者の腸内フローラに与える影響を分析したところ、両方の比較において共通して「ラクノクロストリジウム属」と「アドレクルーツィア属」※2という2つの菌の存在量(腸内フローラ内の割合)に統計的な差異が確認された。

具体的な菌の動向として、ラクノクロストリジウム属は、自宅に「断熱窓がある」と回答した居住者、および主観的な睡眠の質が「良い」グループにおいて多く存在する傾向が見られ、アドレクルーツィア属の存在量についてはその逆の挙動を示した。



※2:「ラクノクロストリジウム属」と「アドレクルーツィア属」について

- ラクノクロストリジウム属:腸内において「酪酸」を作り出す能力を持つ「酪酸産生菌」のグループの一つ。日本人の95%以上が保有しているとされており、多くの人の腸内に広く定着している一般的な常在菌
- アドレクルーツィア属:大豆などに含まれる成分を代謝し、「エクオール」を作り出す「エクオール産生菌」のグループの一つ。日本人における保有率は約半数(2人に1人)にとどまっており、個人によって腸内での保有状況が大きく分かれる細菌

両社は次のステップとして、実際に住宅へ断熱窓を取り付けることによる腸内細菌への直接的な効果を明らかにする介入調査の実施や住環境と腸内環境の双方を改善、向上を目指した事業化等を検討していく予定。